

秋の陣 9月 その2

来年度末に予定されている、センターテストから共通テストへの制度変更の大きな準備のひとつとして、英語4技能資格試験にかかわる英語検定の来年度4月～7月受験のための予備申し込みが昨日から始まりました。

昔の高校生は、こんなに忙しくなかったと思います。7時間は月曜日だけで、それもクラブ活動(部活動ではないクラブ活動がカリキュラムにありました。)をやっていたし、土曜日の午前中まで学校があったので、部活動の対外試合は、日曜日だけだったし、大会もインターハイと総体と新人戦だけだったので、対外試合に追いまわされていることはないのです。

毎日、出版委員会活動と称して、喫茶店にも行ったり、ヤマニ書房にも行ったり、ヤンヤンという駅ビルのお店回りをしたりしてから帰路についても、7時ごろには家についたと思います。

家庭学習をするかしないかは別にして、12時ごろからの深夜ラジオ番組(オールナイトニッポンやパックインミュージック)を聞いてから眠りにつき、翌朝、7時に起き、7時45分の電車に乗ると、8時半には、クラスに入ることができました。8時40分から授業が始まり、3時半ごろには、掃除も終わって、部活動がやれたと思います。

それが、土曜日の授業がなくなり、週5日制となって、カリキュラムを詰めて入れることになり、7校時制となる必然性が生まれ、部活動時間の確保のために、朝を30分早く始業を早めたという流れです。

土曜日と日曜日が休日になって、部活動が倍の時間できるようになり、対外試合も多くなりました。ゆとりがなくなるのは当たり前ですね。

ゆとりがないから、じっくりと自分で考える時間を削って効率的な学習と称する学習が幅を利かせ、対費用効果が薄いということで、読書の時間を削って塾に通い学習に励むようになるということは、間違った進み方といえるのではないかとってはみるものの、目の前の数学や英語の試験の結果について何とかしようとするのでこうなっていくのだろうと思うのであります。

ゆとりの時間がないと、数学も英語も突き抜ける実力が生まれないと思うのです。国語にしたところで、「戦争と平和」や「カラマーゾフの兄弟」「赤と黒」「大地」といった全集にある作品を読んでいる生徒はほんの一握りなのではないでしょうか。

そんな文学的な作品を読まずとも、普通の書類を読む力があればよいという方向に学習指導要領の改訂が進んでいることは、これもまた、間違った方向なのではないかと危惧するのです。

高校生がきらりと光るまなざしをもって、あらゆる知性について心躍らせる時代は、もうないのでしょうか。

そんなことはない大きな声で叫びたい今日この頃です。

